二〇二〇年度活動記録

《公開学術フォーラム》

●第1回東アジア文化権力研究学術フォーラム

「伝統と正統性、その創造と統制・隠滅」

日時　二〇二〇年十一月二十八日（土）九時三十分～十八時

場所　オンライン開催（Zoom ミーティング）

内容

今日の日本において伝統的なもの、正統性のあるものと考えられているもののなかには、実際には歴史の浅いものや、恣意的に創造されたもの、過去の姿から大きく変容しているものも少なくない。このフォーラムでは、近代・現代の日本において、主に日本文学・文化にかかわって伝統や正統性を創造・統制・隠滅する動きについて、前近代からの連続性を意識しながら、5人の報告者の報告内容（戦争と軍記・能楽史・政治思想・和歌と短歌・女子教育）をもとに考える。

講師

鈴木　彰（立教大学文学部教授、日本学研究所所員）

「秀吉の時代を語る言葉――中世軍記の裾野」

徐　禎完（韓国・翰林大学校）

「国民国家の「正統性」を表象する文化：近代能楽史から考える」

宋　錫源（韓国・慶熙大学校）

「国民国家と天皇崇拝」

松澤俊二（桃山学院大学）

「応用される勅題とその受容またはコミュニケーションの諸問題――歌会始の外縁に注目して」

榊原千鶴（名古屋大学）

「皇后美子にみる女子教育と日本の近代化――漢学を手がかりとして」

総合討論

司会　鈴木　彰・徐　禎完

主催　立教大学日本学研究所・翰林大学校日本学研究所

2017韓国研究財団　人文韓国プラス（HK+）人文基礎学問分野〈ポスト帝国の文化権力と東アジア〉関連事業

《学術フォーラム》

●第2回東アジア文化権力研究学術フォーラム

「伝統と正統性、その創造と統制・隠滅」

日時　二〇二一年二月二十二日（月）十三時三十分～十七時三十分

場所　オンライン開催（Zoom ミーティング）

内容

第一回フォーラムの内容を承けて、近代・現代の日本において、主に日本文学・文化にかかわって伝統や正統性を創造・統制・隠滅する動きについて、前近代からの連続性を意識しながら、2人の報告者の報告内容（国語科教育、台湾文学）をもとに考える。

講師

菊野雅之（北海道教育大学）

「国民国家論を離れた地点からの古典学習の構築は可能か」

呉　佩珍（台湾国立政治大学）

「1930年代の郷土文学運動と「台湾文学」概念の形成」

総合討論

司会　鈴木　彰・徐　禎完

主催　翰林大学校日本学研究所・立教大学日本学研究所

2017韓国研究財団　人文韓国プラス（HK+）人文基礎学問分野〈ポスト帝国の文化権力と東アジア〉関連事業

《刊行物》

『立教大学日本学研究所年報』第十九号（二〇二〇年十月）